

玄奘三蔵、鳩摩羅什尊者の足跡を辿って 砂漠のシルクロードをゆく8日間

シルクロードは隊商の通商路だけではなく、中国からインドへと求法僧が往来した道でもあります。中でも玄奘三蔵と鳩摩羅什は二大訳僧とも賞され、数々の経典を漢訳し、中国と日本の仏教に多大な影響を与えました。こちらのコースでは、主に中国最西端の新疆ウイグル自治区にある玄奘三蔵と鳩摩羅什ゆかりの地を巡ります。

1	各地空港 ⇒ 経由地 ⇒ ウルムチ 空路、ウルムチへ(経由便) 【ウルムチ泊】
2	ウルムチ ⇒ トルファン 海拔マイナス100mのオアシスの町・トルファンへ 高昌国の要衝であった交河故城、カレーズ(地下水路)見学 夜、葡萄棚の下でウイグル族の民族舞踊を鑑賞 【トルファン泊】
3	トルファン → トルファン東の遺跡群見学(大谷探検隊で有名なベゼクリク千仏洞、 西遊記で有名な火焰山、アスターナ古墳、高昌故城) 夕刻、列車にてクチャへ 【車中泊】
4	→ クチャ 終日、クチャ見学(クズルガハ千仏洞、烽火台、亀茲故城、 塩水溪谷、華麗な壁画が多く残るキジル千仏洞、スバシ故城) 【クチャ泊】
5	クチャ → コルラ ⇒ 敦煌 コルラへ 空路、敦煌へ 鳩摩羅什ゆかりの白馬塔を見学 夕刻、鳴沙山と月牙泉の見学とラクダに乗り、砂漠を散策 【敦煌泊】
6	敦煌 → 榆林窟 → 敦煌 ⇒ ウルムチ 榆林窟へ 唐代の飛天の壁画のある『15窟』、八大菩薩曼陀羅経変が描かれている『25窟』、 水月観音と取經に飛び立つ玄奘三蔵図が描かれた『2窟』、 白度母の壁画がある『4窟』などを見学 空路、ウルムチへ 【ウルムチ泊】
7	ウルムチ ⇒ 上海 ⇒ 各地空港 空路、上海で乗り継ぎ、各地空港へ 入国手続き、税関の後、解散

莫高窟(中国三大石窟)

「砂漠の天画廊」とも称される莫高窟は、河西回廊の砂漠の中にあり、全長1.6kmの岩壁に膨大な数の石窟が彫り込まれています。

造営が開始されたのは晋代の366年で、14世紀の元代までに1,000窟以上掘られ、現在は492窟が保存されています。窟内の壁画や塑像は仏教東漸の歴史や仏教美術史を語る上で貴重かつ秀逸な資料となっており、中国仏教美術の至宝です。



第57窟・美人観音壁画



第45窟 大迦葉・菩薩・天部



第96窟 樓閣

トルファン

トルファン盆地の中央に位置する乾燥地帯で、総面積13,650k㎡のうち約4,000k㎡は海面より低くなっています。年間降水量はわずか20mmで、最高気温が46度にも達する灼熱の気候ですが、天山山脈の雪解け水が地下水路のカレーズを通して街を潤し、ブドウやハミ瓜といった特産物を産出しています。

5～7世紀に漢族系の高昌国が繁栄した後、ウイグル族が西ウイグル国を建国し、同時にベゼクリク千仏洞を代表とする高度な仏教文化が興り、最盛期を迎えました。玄奘三蔵も高昌国に滞在されました。



火焰山



ウイグル族とブドウ



高昌故城



交河故城

亀茲国クチャと鳩摩羅什

クチャは天山南路の南麓に位置し、漢代には亀茲(キジ)国と呼ばれ、鉍山資源を産出する天山南麓最大のオアシス都市として中継交易により繁栄しました。当時は仏教が盛んで、玄奘三蔵もインドに向かう途中に立ち寄りました。現在は多くの千仏洞が残っており、壁画には当時、アフガニスタンでしか採れなかった青く美しいラピスラズリの顔料が多く使われています。

鳩摩羅什は4～5世紀頃に約300巻の仏典を漢訳した亀茲国出身の訳経僧です。亀茲国王の妹を母として生まれ、父はインド人でした。前秦の亀茲攻略後、長安に迎えられ、訳経に従事し、鳩摩羅什の優れた訳経のおかげで大乘仏教は東アジアに広まり、それはやがて遥か東の日本にも伝来しました。



ラピスラズリで色付けされた壁画



キジル千仏洞と鳩摩羅什の像



ベゼクリク千仏洞



キジル千仏洞内の壁画



スバシ故城



クズルガハ烽火台